



碧南ロータリークラブ週報

第2583回例会 平成24年2月22日(水)

● 会長 石川 春久 ● 幹事 平岩 辰之 ● 会場監督 (SAA) 新美 惣英

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 鈴木健三・菅原 優・永坂誠司・鈴木宏枝



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

● 齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

曹洞宗 新蔵寺 住職 竹川正悟様



奥谷弘和副会長

副 会 長 挨 拶

2月19日にホテルグランドティアラ安城で安城クラブをホストとして2760地区のインターシティミーティングが開催された。

当日は、碧南クラブはみんなが参加をしたので詳細な報告は省略をする。

フォーラムでは盛田和昭パストガバナーの講演「ポールハリスは友達がほしかった」があり、その後ロータリーの友達づくりをテーマにディスカッションがあった。ディスカッション終了後あらかじめ決めてあった順に従って9人からディスカッションの内容について発表があり講評があった。

講評では、インターシティミーティングは本来ディスカッションの場であり、その意味ですばらしいインターシティミーティングであるとお話があった。

私の所属したテーブルでは「会員増強」について話し合いがあり、安城クラブは今年の会員数増加目標を17名に設定しているということであったので大変だな、と思った。後の報告を含めて全体で特に印象に残ったこととしては、各クラブが「同好会」を作っているということであった。写真の同好会、観劇の同好会、俳句の同好会、お絵かき・日本酒・ワイン・ゴルフなど多種多様な同好会を作っているクラブがたくさんあった。

また、西尾K I R A R Aクラブからの発表で、学校の校庭の芝生化を進め、RC予算では不足をしたので市の予算で補助してもらって、さらにその後に各学校に拡大をするために市で予算化をすることになったという報告もあった。

懇親会では盛田さんが寄贈をしたと思うが日本酒が各テーブルにあって、私としては乾杯が日本酒できてよかった。お酒が入って、これまで話したことがなかった他クラブのメンバーと打ち解けて話をするのができた。これも今回のミーティングの狙いであったが、非常によい結果であったと思う。

所得税の確定申告の時期

今年は特に寄付金控除について申告を忘れないように。東日本大震災等にRCや日本赤十字を

通じて行った寄付は、所得控除もあるが税額控除もあり有利であるので申告を漏らさないように。
年間400万円以下の年金による所得税の申告不要制度もできた。有利不利があるのでこれについても税理士に相談してほしい。

幹事報告

- 例会変更等は幹事報告書の通りです
- 東日本大震災支援活動内容の報告書の提出をお願いします
- 4月15日地区協があります。



平岩辰之幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 総会員数71名(内出席免除者14名の内出席者9名)出席者53名 | |
| 出席対象者 53/66名 | 出席率 80.30% |
| 欠席者18名(病欠者1名) | 前々回修正出席率 96.49% |

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 森田 英治君 2月19日の安城RC、I.M会場で来年の碧南RCで行うI.MのPRをしっかりと行って参りました。
- 加藤 良邦君 2月19日I.Mには生まれて初めて、胸に大きな赤いバラを付けて頂き、トイレにも7回も通い、大変緊張の1日でしたが、思い出深い日となりました。有難うございました。深く感謝致します。
- 石川 春久君 I.Mありがとうございました。次年度は当クラブがホストです。一層の御協力お願い申し上げます。
東京競馬場、今年初のG-1レース予想通りテスト・マッタ号が優勝。ヤッテ・シマッタ！！
- 長田 豊治君 過日のI.Mでは、クラブを代表して発表をさせて頂き、有難うございました。次年度のI.M主管には、皆様の一層のご協力をお願い致します。
- 伊藤 正幸君 日曜日のI.Mで友達が出来ました。
- 平岩 辰之君 I.Mへの御出席ありがとうございました。2012-2013年度ガバナー補佐 加藤良邦様、ホストクラブ会長 黒田昌司様、I.M実行委員長 森田英治様、大変御苦労様でした。
I.Mにて長田豊治さん、テーマ「4つのテストについて」まとめ発表ご苦労様でした。石橋嘉彦さん、報告書提出ご苦労様です。よろしく申し上げます。
I.Mでは、亀山裕一さん、鈴木並生さん、石橋嘉彦さんには、お世話になりました。ありがとうございました。
- 山中 寛紀君 2月11・12日連休、やっぱり少し良いことがありました。
- 杉浦 栄次君 本日の卓話の講師、竹川正悟様をご紹介します。
- 鈴木 宏枝君 2月19日は、ご迷惑をかけました。小学生の孫がインフルエンザという事で、下の孫2才と4才を預かり、6日間テンヤワンヤでした。お蔭様でもとにもどりました。

卓 話

「心の声を聞く」曹洞宗 新蔵寺住職 竹川 正悟氏

南知多・新蔵寺住職の竹川でございます。私が本日ここに参りまして一番驚いたのが当クラブが毎週例会を行い、しかも100%出席を目指している事でございます。そして心の中の奉仕という事に真正面から取り組んでいることに敬意を表します。

さて南知多の片名地区は地元の産品を姉妹都市との交歓会に使っております。姉妹都市は佐屋市でございます。商工会に入っている総代に「なぜ姉妹都市が佐屋なのか」と尋ねたところ、「片名(刀)に佐屋(鞘)は付き物である」と上手く返答されてしまいました。

このように色々なところで縁というものは結ばれているんだなあと思います。

以前、NHKで「無縁社会」が取り上げられた時、一家で亡くなられたり、家族の孤独死を聞くにつけ胸が締め付けられる思いをしました。

仏教の教理の中では無縁ということはありえません。世の中は全て縁で成り立っているからです。無縁化社会というものは我々がしてしまっていることもあると思います。宗教に携わる我々に対して戒めを与えてくれているのだと思います。私達は少しでも良い社会を作る為に、日々努力しているのではないのでしょうか。これから話す私の話がそんな契機になれば幸いです。

私は36歳の時にお坊さんになりました。今年やっと成人式であります。

この話は随分前の暮れの出来事でございます。いつもお寺を訪ねてくれるおばあさんの話です。

誰しも忙しい暮れですから師匠とおばあさんの話はすぐに終わると思っていたら、30分経ち1時間も経ち、早く帰ってこないかと私は段々腹がたってきました。話の内容は病気のことで、家族への愚痴、孫の話で何度も何度も繰り返していました。やっとおばあさんが帰ったので師匠に「この暮れの忙しい時に愚痴をいいにわざわざ来ただけだ」と文句を師匠に言うと「この馬鹿者」と怒られてしまいました。「お前はそれでも坊主か。おばあさんの姿が見えなかったのか。あの姿を見てどう思った。それでも分からないのか。私達は日々生活していて色々な事を尋ねられる。その全てに指し示す事はできないが、聞くことはできる。私はあのおばあさんの話をうなづいて聞いていただけだが、あの方はスッキリして帰られた。皆、どうにもならなくてここへ来るのだ。ここに来て必ずどうにかなるわけではないが、話すことによってスッキリして帰る。私たちの役目は話を聞くことに尽きる。」

さて京都に三十三間堂があります。これは柱と柱の間が33間(約120M)あるから呼ばれるそうであります。これは人の思いの深さである。観音様が1000体あれば誰かが私の気持ちを聞いて下さるのではないかと思わせてくれる。これはお参りする我々にとってはとても心強いものである。あのおばあちゃんも「助けてくれ」と家庭内の愚痴をこぼしたのではないのか。聞いてもらっている内に自分で解決の糸口を見つけたと思う。

私はある時1人の少年をお寺に預かることになりました。元は優秀なサッカー少年で怪我をしたために志望高校に行けなくて、高2の時に何も言わずに預かってくれと知り合いに言われました。この子が学校に行かなくなったのは天狗だった鼻を折られて挫折を味わったからでした。それを親が見かねて私の新蔵寺に頼んできたという経過であります。ある時、彼は「アルバイトがしたい」と言い出しました。総代に無理やり頼んでその職場に1か月ほど勤めていましたが、お盆近くになり、当方もお寺の仕事をしてもらいたいために先方に一度お礼を言う事になりました。総代は「マコト君、あと1年たったらどうするのか、うちに来ないか、何なら家から通っても良いし卒業してからでも構わんが」と。



竹川 正悟氏

まこと君は即答できず、晩ごはんの時に「ビックリした。こんな俺に「来てくれ」と言ってきた。俺でも世の中に役立つ事もあるんだなあ、俺は嬉しい」と泣いた。この後、彼は変わった。高校は転校したが、今東京近郊で勤めているし結婚もした。私もまこと君の心の中の声は聞けなかったが、総代は「一生懸命やっていれば良いこともある」と言い、まさしくマコト君の心の中の声を聞いた。私もこれまで以上に色々な方の心の中を聞いて周りの方々にお伝えしていきたい。他のために生きてこそ、自らの全ての人生がある。これが人間の基本ではないですか。生物は全て係わりあって生きています。世の中には無縁ではありません。雑駁な話になりましたが聴いていただいで感謝申し上げます。

次回例会案内 平成24年3月7日(水)
クラブフォーラム「障害者の自立を支える介助犬」
社会福祉法人 日本介助犬協会事務局長・医学博士 高柳友子氏